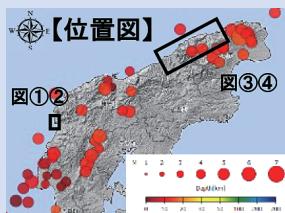


# 令和6年能登半島地震による地盤変動／中日本航空株式会社

令和6年1月1日16時10分ごろに石川県能登地方を震央とした最大震度7の地震が発生しました。地震によりお亡くなりになられた方に哀悼の意を表しますとともに、ご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。また、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

中日本航空株式会社では、発生の直後から緊急斜め撮影やレーザ計測の準備を開始し、翌日には緊急撮影を実施しました。レーザ計測は、気象状況を考慮しながら目的に応じて固定翼機及び回転翼機を使い分け、影響が大きいと思われる地域を対象に実施しました。撮影した写真やレーザ計測に関する情報は、弊社ホームページやG空間情報センターにおいて、随時情報公開をしております。

## 表紙解説▶



### 【海岸隆起の状況：輪島市門前町】

- ① 発災前（令和2年）の海岸線  
・レーザ測量成果出典元：石川県農林水産部 森林管理課 ※1
- ② 発災後の海岸線  
・レーザ測量成果出典元：中日本航空株式会社計測データ（回転翼機）  
図①は、輪島市門前町の海岸線の斜め画像で、航空写真のRGB情報を付与した発災前の点群データを使用した鳥瞰図です。図②は、発災後の点群データを使用した鳥瞰図で、海岸隆起の様子が確認できます。

### 【発災後の地形と変動の状況：珠洲市馬縹町～輪島市町野町】

- ③ 発災後の地形起伏図（特許番号5587677）  
・レーザ測量成果出典元：中日本航空株式会社計測データ（固定翼機）※2
- ④ 発災前の地形と発災後の地形との簡易標高差解析図  
・レーザ測量成果出典元：発災前のレーザデータは ※1、発災後のデータは ※2。  
・0.5mDEMを用いて簡易標高差解析を実施しました。  
図③は発災後に計測したレーザデータから作成した地形起伏図です。図④は同じ範囲で発災前のレーザデータ（※1）と発災後に計測したレーザデータ（※2）の簡易標高差解析を実施した平面図です。図④の中央付近が全体的に上昇傾向（茶色系）となっているのは、地盤の隆起によるものと考えられ、外側の範囲ではその変動が小さくなっている状況（緑色系）が確認できます。また、地盤面全体が南西方向に移動していることから、主に西向き斜面が上昇傾向を示す一方で、尾根を挟んだ反対斜面が下降傾向を示しています（【拡大図参照】）。

なお、発災後の計測データは、電子基準点「輪島」を固定局として解析処理し、国土地理院のホームページの地殻変動情報（[https://www.gsi.go.jp/chibankansi/chikakukansi\\_20240101no\\_to\\_4\\_00003.html](https://www.gsi.go.jp/chibankansi/chikakukansi_20240101no_to_4_00003.html)）を参考に簡易的な調整を実施しています。

### 【位置図】

気象庁「あなたの街の防災情報ページ」の「震央分布図」において、1月1日～7日までの最大震度4以上の震央を表示した図面を背景に表紙図の位置を示しています。

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#9/37.49/137.27/&contents=hypo>

